

お互いさま

otagaisama

恵みあい、助けあう

優秀賞

特集

第30回こうほうえん研究発表会

30年培われる研究の文化 根拠に基づくケアを追求
優秀賞 受賞者インタビュー

キラキラ働き人

デイハウスわたり(小規模多機能型居宅介護)
主任管理者兼介護支援専門員 原田 篤さん

地域にもっとお互いさまを

地域とともに歩むこうほうえんの取り組みをご紹介します

こうほうえんNews

こうほうえんの最新トピックス



第30回こうほうえん研究発表会



米子コンベンションセンター内の4会場で、さまざまな研究発表が行われました



発表後には質疑応答が行われ、参加者から鋭い質問が寄せられるなど、関心の高さがうかがえました



受付や進行のアナウンスなども職員が担当。法人一丸となって研究発表会を盛り上げました



ロビーには30回の歩みを展示し、多くの職員が関心を寄せて見入る姿が見られました

30回分の抄録も展示され、これまでの研究の積み重ねを感じられる機会となりました



会場発表に加え、オンラインでの発表も実施されました



早稲田大学教授の松原由美氏による30回記念特別講演



今年は85題の発表が行われ、会場では参加者が熱心に聞き入る姿が見られました

30年培われる研究の文化 根拠に基づくケアを追求

経験だけに頼らない 介護の標準化を目指し発足

「こうほうえん研究発表会」は、職員が一年間の業務を通じて積み重ねてきた研究成果を発表し、学びを共有する場として、毎年3月末に開催されています。30回目の節目を迎えた今年3月28日に実施。85題の発表と記念講演が行われ、米子コンベンションセンター内の4会場は参加者の熱気に包まれました。

同会は1997年、さかい幸朋苑が開苑10周年を迎え、境港市と共同で地域施設「ナマステホール」を開設した年に始まりました。「当時は介護保険制度の施行前。親を介護施設に預けることに否定的な見方も強く、現在とはまったく異なる環境でした」と福祉業界の様子を振り返るのは、長年、同会の実行委員を務める足立敬史さんです。

30年前は、介護に関する研究発表は全国的にも極めて少なく、ケアに対する根拠（エビデンス）が明確にされていない状況でした。「医療が臨床と研究の両輪で質を高め、発展していく一方で、介護は経験に頼っていました。介護の発展のために、根拠に基づくケアが重要だと考え、研究発表会が始まったのです」と足立さん。研究発表を通じて実証と共有を重ね、介護の標準化を目指してきました。

地域の方が発表者として登壇することもあります。「同じテーマでも、法人の外から見ると方法や捉え方が異なり、視野が広がります」と足立さん。異なる立場からの検証は、職員にとっても大きな学びとなっています。

コロナ禍でも守った「研究の灯」 小さな波は大きな潮流へ

2002年、こうほうえんは日々の実践を「小さな波」と名付けました。一つひとつは小さな取り組みでも、その積み重ねがやがて大きな潮流を生むと信じて歩みを進めてきました。

「この取り組みを福祉業界全体に波及させたいという思いから、当初より研究発表会の内容は他法人とも共有してきました。現在では、全国各地で法人による研究発表会が開催されるようになり、こうほうえんの取り組みがその一つの契機になったのではないかと考えています」

30年の歴史の中には、開催が危ぶまれた時期もありました。第24回は新型コロナウイルスの影響により誌上発表という形をとりました。「一方で、ZOOMの登場が大きな転機に。遠隔地をつなぐことが容易になり、可能性が生まれました」と、新たなツールを投入。第25回はオンライン開催とし、研究の灯を守りました。制約が多い中でも45題の発表があり、以降は発表内容の精査と充実を図りながら、文化のさら

お話を聞いた人



法人本部経営企画部部長
足立 敬史さん 1989年入職。介護の現場で8年経験を積んだ後、米子エリアの事業所専任相談員や施設長を歴任。2020年7月より現職。こうほうえん研究発表会の実行委員を務める。

手探りでスタートから 法人全体の文化として浸透

第1回はナマステホールで開催され、演題数は11題。研究発表の経験がない職員がほとんどの中、発表者は試行錯誤しながらスライドを作成し、壇上に立ちました。その後も回を重ねることに内容は充実し、第6回以降は演題数が増加。第7回からは会場を米子コンベンションセンターへ移し、錦海リハビリテーション病院や東京エリア、グローバル人財による発表も加わりました。

演題数が増えるにつれ、時期には150題前後に上り、現在も毎年100題近い発表が行われています。優れた演題はその後、国内外の学会などでも発表され、研究発表は法人全体の文化として定着しました。「職員も日々の業務の中で、ケアの根拠を求めるようになり、意識の変化を実感しています」

同会では他法人からの発表も受け付けており、今大会には3法人から4題のエントリーがありました。ご利用者のご家族や民生委員、自治会長など、なる発展へとつなげています。現在は、対面とZOOMを組み合わせた開催方式により、海外を含む遠隔地や外部からの発表・参加も可能となり、新たな刺激をもたらしています。

故人の熱意を受け継ぎ さらなる質向上を

文化を継続し、発展させていく上で、研究を支える仕組みと評価も重要な要素です。「木下準四郎基金」は、嘱託医として永年貢献された故・木下準四郎医師からの寄贈を基に創設され、毎年、選考を経た事業所が1年をかけて研究に取り組んでいます。また、職員の人材教育に熱意を注いだ故・遠藤泰治氏を称えた「遠藤泰治賞」は、優秀な研究に対して贈られ、副賞として第16回から第23回まで海外研修が贈呈されました。

現在はそれぞれ「木下準四郎・遠藤泰治基金」「優秀賞」と名称を改め、副賞の海外研修は新型コロナウイルスの影響で中断していますが、今後も国際交流を見据えた副賞が企画されています。

「介護・医療・保育の各職員が、提供するサービスについて『何のためにやっているのか』を説明できるよう、これからは中心的取り組みです。根拠を追求し、地域におけるこれらサービスの質の向上の貢献に努めてまいります」

第30回こうほうえん研究発表会

優秀賞 受賞者インタビュー

2026年3月28日に開催された「第30回こうほうえん研究発表会」で、優秀賞を受賞した皆さんに、研究テーマに込めた想いや研究を通して得た学び、今後の目標について伺いました。



無意識のアプローチを可視化 客観的視点での振り返りを可能に

錦海リハビリテーション病院では開院以来、職場教育を重視してきました。理学療法士の症例検討会では「2画面同時再生」を導入。同一テーマの若手とベテランの臨床動画を同時再生して比較し、訓練の時間配分をグラフ化しています。言語化が難しい無意識の動作や視線、手技が可視化され、客観的に振り返りできる点が最大のポイントです。これにより経験の浅い若手の理解が深まるだけでなく、ベテランにとっても新たな気づきの機会となり、業務改善や質の高い知識共有を実現しています。今後は会の準備・進行をさらにブラッシュアップし、職員の自己研鑽につなげていきたいです。



錦海リハビリテーション病院 理学療法士 **岩田 友さん**

<ノーリフティング・リハビリテーション>
【受賞演題】「臨床能力の向上を目指した、同一症例に対する2画面同時再生を用いたグループ学習の取り組み」

入浴設備の導入で 負担を減らし満足度も向上

介護度に適さない浴室での入浴支援は、抱え上げによる腰痛やケガ、事故のリスクのほか、ご利用者の不安にもつながります。うきま幸朋苑では、双方の身体的・精神的負担を軽減し適切な環境で入浴できるよう、ウルトラファインバブル機能付き入浴設備とシャワーキャリヤーフト浴を導入。負担軽減と業務効率化によつて職員にゆとりが生まれ、ご利用者の満足度も高まりました。両機器とも日本語表記のみの説明書という課題もあり、今後はグローバル人材に対応した体制づくりに取り組むとともに、入浴支援以外でもケアの質を上げ、ご利用者の生活全体の質向上を目指していきます。



介護老人福祉施設うきま幸朋苑 介護福祉士 **前田 涼平さん**

<排泄・スキンケア>
【受賞演題】「入浴業務、効率化してみました～マイクロファインバブル、始めました～」

ご利用者と職員、相互の安全と 負担軽減に取り組んだ10年

ご利用者を抱え上げる人力の介護は、事故やケガのリスクが伴います。こうほうえんは2016年、健康的で働きやすい職場の整備を目指して「ノーリフティング宣言」を行い、鳥取・東京の全エリアでノーリフティング推進委員会を発足しました。委員会では介護・労災事故の軽減と適切な福祉用具の普及に向け、各事業所の事例を共有。移乗方法の選定基準となる独自のフローチャートを作成しました。結果、ノーリフティング達成率は21年度の47%から24年度には94%へと向上。今後は通所・在宅支援にもアプローチを拡大し、介護者の負担軽減や重症化の予防につなげたいと考えています。



介護老人福祉施設さかい幸朋苑 主任介護士 **野坂 賢一さん(写真左)**

<ノーリフティング・リハビリテーション>
【受賞演題】「抱え上げない介護を目指した10年間～ノーリフティング推進委員会の軌跡～」

より良い人間関係は より良い保育につながる

保育現場の人間関係は、保育の質や職員の定着率を左右する重要な要素です。そこで、「より良い保育は良好な人間関係から」と考え、職員間の相互理解を深める取り組みを行いました。具体的には、MBTI診断による各自の性格を共有した上で、計12回のグループワークや別クラスを担当する「シャッフル保育」を実施。お互いの考え方のクセや立場を理解することで、自然な気配りや交流が生まれました。その結果、9割近くの職員が意識の変化を実感。これを機に各クラスに話し合いの時間「ノンコンタクトタイム」を導入しました。この成果を一時的なものにとせず、継続させていきたいです。



新砂保育園 保育士 **田舎 千優さん**

<人材育成>
【受賞演題】「支え合いから生まれる保育の力～同僚を知る。自分を伝える～」

ICT機器を活用し 「その人らしさ」を尊重

老人保健施設において、ご利用者一人ひとりに合わせた「その人らしいケア」をどう提供するかは、職員共通の課題です。そこで、ご利用者の睡眠状態を把握できるICT機器「眠りSCAN」に着目。リハビリ領域での活用による、リハビリ意欲や業務効率への影響を前後比較で検証しました。導入期には、睡眠中や半覚醒状態での声掛け、再訪問・待機時間が減少。ご利用者の参加意欲も向上し、再度非活用に戻した際も高い意欲が維持されました。これは、穏やかな声掛けや待つ姿勢が職員に定着したためと考えます。これを一過性にとせず、引き続き個性を尊重したケアの提供を目指します。



介護老人保健施設なんぶ幸朋苑 作業療法士 **内田 康貴さん**

<ノーリフティング・リハビリテーションICTとケア>
【受賞演題】「眠りSCANのリアルタイムモニターを用いた介入のタイミング決定が業務効率ならびに利用者のリハビリテーションに対する意欲へ与える影響」

ふれあいの橋の会

―地域とともに歩む、こうほうえんの取り組み―

地域をつなぐ架け橋
―ふれあいの橋のはじまり

こうほうえんでは、地域とのつながりを大切にしたり取り組みの一つとして「ふれあいの橋の会」を運営しています。その原点は、1987年4月に鳥取県境港市誠道町に開設した「特別養護老人ホームさかい幸福苑」にあります。

当時、施設の正面玄関の南側には幅約2メートルの水路を挟んで誠道小学校が隣接していました。両者の間はそれぞれのフェンスによって隔てられていました。そこで翌1988年8月、フェンスの一部を取り外し、水路に橋を架けることで交流をスタートさせました。



この橋は「ふれあいの橋」と名付けられ、地域と施設を結ぶ象徴的な存在となりました。

「利用者本位を支える仕組み」
―「ふれあいの橋の会」の役割と展開―

その後、2000年4月の介護保険制度施行を契機に、こうほうえんではそれまで実施してきたご利用者や地域の声を聴き取り組みをさらに発展させ、独自のオンブズマン制度として「ふれあいの橋の会」を発足しました。制度化されたこの取り組みは、ご利用者本位のサービス向上と透明性の確保を目的としています。

外部委員には、民生児童委員や自治会関係者、施設ボランティアなど地域の代表が参加し、施設を訪問してご利用者の生活状況や職員の関わり方、施設環境を直接見ていただきます。その中で寄せられた意見や提案は、サービス改善に積極的に反映され、これまでに多くの質向上につながってきました。

また、内部委員として各エリアの総合施設長や各事業所の施設長・管理者が参加し、外部の視点を踏まえた議論を行うことで、より実効性の高い改善活動を推進しています。こうした取り組みを通じて、「ふれあいの橋の会」は単なる意見交換の場にとどまらず、法人と地域社会をつなぐ架け橋としての役割を担っています。

開催方法については、エリアごとに年度当初に計画を立て、1年間で全事業所を少なくとも1回以上訪問する体制を整えています（東京エリアを除く）。開催頻度は地域の実情に応じて、毎月または2か月に1回のペースで定期的な実施され、継続的な対話の機会が確保されています。さらに、各回の内容は報告書（REPORT）としてまとめられ、掲示板等で公開することで、透明性の確保と情報共有にも努めています。今後、こうほうえんでは「ふれあいの橋の会」を通じて地域の声に真摯に耳を傾けながら、ご利用者一人ひとりに寄り添ったサービスの提供と、地域とともに歩む福祉の実現を目指してまいります。

「ふれあいの橋の会」のREPORTはこちらよりご覧いただけます。

https://kohoen.jp/fureai_bridge/

第15回オールジャパンケアコンテスト報告 ―補助事業を活用した取り組みと成果―

昨年開催された「第15回オールジャパンケアコンテスト」は、＜令和7年度老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助金）＞を活用して実施しました。本事業は、高齢者ケアの質の向上や人財育成を目的とした重要な取り組みの一環として位置づけられており、多くの関係者のご理解とご協力のもと開催することができました。本事業の実施にあたっては、関係機関や協力団体との連携も重要な要素となりました。それぞれの立場からの支援や助言を受けることで、より実効性の高い内容となり、現場に還元できる成果を得ることができました。補助金を活用することで、内容の充実だけでなく、広く情報発信を行うことも可能となり、事業の意義を社会に伝える機会にもなりました。

こうした取り組みの成果を広く共有するため、このたび報告書を作成し、公開いたしました。本報告書には、コンテストの概要や実施内容に加え、参加者の声や得られた知見、今後の課題等を掲載しています。広く介護・福祉に携わる方々にご活用いただくことで、今後のケアの質向上や人財育成の一助となることを期待しています。引き続き、利用者本位の質の高いサービスの提供と人財育成の推進に取り組み、地域福祉のさらなる向上に寄与してまいります。



第15回オールジャパンケアコンテスト

「令和7年度老人保健健康増進等事業報告書」

こちらよりご覧いただけます。

こうほうえんNews

News 01 「令和8年度 新規学卒者採用職員」入社式

3月27日、米子コンベンションセンターにて「令和8年度新規学卒者採用職員」の入社式を執り行いました。4月から34名の新入職員が、社会人として新たな一歩を踏み出しています。内訳は、鳥取地区12名（介護5名、保育3名、セラピスト3名、看護師1名）、東京地区22名（介護12名、保育10名）で、それぞれの現場での活躍が期待されます。

廣江晃理事長は、新人職員を迎えられたことへの喜びを述べるとともに、現場での気づきが組織の成長につながることに触れ、「目の前の仕事に真摯に取り組み、挑戦を重ねながら成長してほしい」と期待を寄せました。

廣江研会長からは、「あいさつ・笑顔・掃除を大切に、地域に愛され、信頼される存在となってほしい」と激励の言葉がありました。



新入職員を代表して決意表明を述べる澤田吳希さん

News 02 開苑20周年を迎えて

『特別養護老人ホーム きんかい幸福苑』（きんかい特養）は、2026年5月1日に開苑20周年を迎えました。これを記念して、5月に式典が開催されました。20周年記念式典では、多くの皆さまにご参加いただき、節目の年をお祝いしました。ご利用者ご家族の長男様とお孫様による親子デュオ「father & daughter」のフルート演奏は、美しい音色で会場を包み込み、「ふるさと」の演奏では皆さまと一緒に歌い、心温まるひとときとなりました。

20年という長い年月の中で、多くの出会いがあり、多くの方々に支えられて今日があります。その感謝の気持ちを忘れず、これからも地域の皆さまに信頼され、安心して暮らしていただける施設を目指して歩んでまいります。

なお、弊社人内では『錦海リハビリテーション病院』が20周年、『なんぶ幸福苑』が30周年を迎えます。



「father & daughter」のフルート演奏



きんかい幸福苑

News 03 日々の実践が結実 高齢者ケアで優秀賞受賞 ―福祉サービス実践・研究発表会にて高い評価―

「第3回福祉サービス実践・研究発表会*」が東京都内で開催され、高齢者や障がい分野で働く社会福祉法人職員らが日頃の取り組みを発表しました。会場には約130人が参加し、日常のケアや多職種連携、人財育成など、多岐にわたるテーマで現場発の実践が共有されました。

こうほうえんからは、『デイサービスセンターうきま幸福苑』の豆田香果係長が登壇し、「デイサービス稼働率アップに向けたさらなる取組」を発表。本発表は優秀賞を受賞し、柏保友美主任とともに、その実践が高く評価されました。発表では、利用者減少により稼働率が一時60%まで低下した状況を踏まえ、季節行事や美容・音楽などのレクリエーションを充実させるとともに、イベントごとのチラシ作成による情報発信を強化した取り組みを紹介。その結果、新規利用者の増加につながり、稼働率は80%を超えるまでに回復しました。

今回の受賞は、日々の実践の積み重ねが評価されたものであり、今後もこうした取り組みを通じて、より質の高いサービス提供と地域への貢献を目指してまいります。

※本発表会は、長岡福祉協会および東京栄和会を主管法人とする実行委員会により開催されています。



抄録



（左から）豆田香果 係長、柏保友美 主任

社会福祉士の社会的認知度の向上とご利用者を支える連携強化を目指して

医療・介護の仕事は、自己研鑽が欠かせません。私はこうほうえん入職後、職場の支援を受けながら通信制大学を卒業し、社会福祉士の資格を取得することができました。今年4月には認定社会福祉士(高齢分野)も取得。仕事と勉強の両立は大変でしたが、認定機構からの認定の知らせに苦労も吹き飛びました。

社会福祉士は病院や行政機関、学校など多方面で活躍する一方、一般への認知度はあまり高くありません。そのため鳥取県社会福祉士会に所属し、知識・技術の底上げや社会的認知度の向上を目指して仲間と活動しています。法人内でも社会福祉士の専門性の向上、人材育成や連携づくりに取り組んでおり、キャリアラダーの構築が目標です。

ご利用者を支えるには、ご家族や地域、医療、看護、リハビリなどの連携が不可欠です。目の前のご利用者に向き合い、住み慣れた地域でその人らしい暮らしを続けられるように連携をより深めていきたいです。



☆☆☆
＼キラキラ！
働き人
☆☆☆

プロフィール

デイハウスわたり(小規模多機能型居宅介護)主任管理者兼 原田 篤さん
介護支援専門員

2007年4月入職。さかいみなとエリアの介護老人福祉施設、地域包括支援センターなどに勤務し、2年前から現職。『ピスターレわたり』の管理者も兼務。今年4月、認定社会福祉士(高齢分野)の認定を受ける。

寄付者一覧

※2026年3月～5月にご寄付をいただいた皆さま

寄付金合計額:1,545,000円

心温まるご寄付を賜り、深くお礼申し上げます。皆様から賜ったご寄付は、ご厚志に沿い「地域貢献事業」として使わせていただいております。

●おけ建設株式会社/10,000円 ●相見慎様/30,000円 ●石田自動車商会様/200,000円 ●その他/1,305,000円 <西東京エリア>●卒園児様/木製汽車玩具・木製まごど玩具

ボランティア一覧

貴重な時間をいただき、厚くお礼申し上げます ※2026年3月～5月にボランティアにご参加いただいた皆さま

<さかいエリア>●アロマハンドマッサージ…田村貴子様 ●エクササイズ・太鼓の達人・卓上ゲーム…境港総合技術高校eスポーツ部18名 ●昭和の歌等のミニコンサート…角ファミリーバンド10名
●ウクレレ・ハーモニカ…渡部哲美様 ●紙芝居・歌・ファゴット・ギター…紙芝居の会11名 ●歌・体操…吉永和代様 ●フラダンス…ハワイアンフラ(渡公民館)8名 ●歌・読み聞かせ…朗読なごさ会3名
●傾聴…ことぶきクラブ11名 ●歌・体操・習字教室…日赤奉仕団8名 <よなごエリア>●生け花教室…野本操子様 ●お話し・見守り・生け花教室…足立久子様 ●フルート演奏…園山様親子2名
●アザレア祭り(エステ体験)…バールヴェール2名 ●オカリナ演奏…錦海町オカリナ同好会3名 <なんぶエリア>●支え合いカフェ補助…勝部尚子様、石田喜和子様、西山直子様、栗田千恵様、仲田みどり様、佐藤陽子様、斉木ルミ子様、尾原稔枝様、梅木恭美様、足羽恵美子様 ●ハーモニカ演奏…中合みちる様 ●フルート演奏…川上淑子様、石賀葉子様 ●ハーモニカ・尺八演奏…恩崎弘美様、他1名
●フラワーアレンジメント…宇山厚子様 ●読み語り…秋鹿美美子様 ●脳トレ・手作業…秋鹿美美子様 ●傾聴…よなご傾聴しあわせの会5名 ●傾聴・軽作業…鳥取大学医学部1年生6名 ●活花…斉木明子様
●食堂…松本朱美様、松井良子様、大島美紀子様、河野富美子様、中田玲子様、角千春様、谷口早苗様 ●見守り…生田加奈代様、須山幸子様、稲田淳子様、大谷幸代様、井上幸子様、浜田静子様
<いなばエリア>●歌・ミュージックケア…日本ミュージックケア協会4名 ●ハンドマッサージ…POLA4名 ●離人形作り…用瀬町流しびな1名 ●講話・歌…浜坂教会3名
<北東京エリア>●子どもの保育・雑務等…西浮間小学校・浮間小学校31名 ●メイク・フェイシャルエステ…介護美容研究所14名 ●書道…小林様 ●ボトルピース…しおん3名 ●キーホルダー…雅様
●演芸…あすなろ会5名 ●軽作業…加藤様、中西様 ●フラダンス…フラダンスチーム16名 ●三味線…鈴木様、他3名 ●アートセラピー…佐藤様、他1名
<西東京エリア>●読み聞かせ…地域高齢者お話しポケット9名 ●子どもとのふれあい…落合第四小学校・落合第二小学校2名 ●体操…IECRUマッサージ3名
<南東京エリア>●訪問お話し…品川区立大井図書館6名 ●朗読劇・手遊び…マザーグース4名 ●調理補助・イベント手伝い…11名 ●健康測定会…ファミリー薬局4名 ●ハンドマッサージ…プラチナ美容塾9名
●ジャズコンサート…キャトル4名 ●コンサート…ハートフル4名 ●フラワーアレンジメント…3名 ●ピアノ演奏…3名 ●落語・コカリナ演奏…3名 ●アルトサクセス演奏…1名 ●傾聴ボランティア…3名
<錦海リハビリテーション病院>●館内植物の植替え等手入れ…1名



法人本部事務局

〒683-0853

鳥取県米子市両三柳1400

TEL:0859-24-3111 FAX:0859-24-3113

フリーダイヤル:0120-418-658

E-mail:welfare@koho-en.jp

東京事業本部

〒108-0014

東京都港区芝5-26-30 専売ビル6階6-3

TEL:03-6410-7365 FAX:03-6410-7364



2014年度日本経営品質賞大規模部門
(鳥取地区/介護)受賞



こうほうえんはISO9001-2015
(品質マネジメントシステムの国際規格)を
認証取得しています



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
おもてなし経営企業に選定されました



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
ハイサービズ日本300選に選定されました

詳しくはHPへ



こうほうえん 検索

<https://www.koho-en.jp>